

尾張東部圏域地域医療構想調整病院ワーキンググループの開催結果

1 開催日時・場所

平成28年6月8日（水）午後2時から午後3時30分まで
瀬戸保健所 3階 講堂

2 出席者（敬称略）

所 属	職 名	氏 名
瀬戸旭医師会	会長	黒江 幸四郎
東名古屋医師会	会長	笹本 基秀
公立陶生病院	院長	酒井 和好
愛知医科大学病院	院長	羽生田 正行
藤田保健衛生大学病院	院長	湯澤 由紀夫
独立行政法人労働者安全福祉機構 旭労災病院	院長	木村 玄次郎
医療法人大医会 日進おりど病院	副理事長	大島 亮
医療法人財団愛泉会 愛知国際病院	欠席	
医療法人青山病院	院長	青山 弘彦
医療法人青和会 中央病院	院長	青山 貴彦
医療法人社団順心会 井上病院	欠席	
医療法人宏和会 やまぐち病院	院長	浅井 健次
水野病院	院長	河邊 章夫
医療法人宏和会 あさい病院	院長	浅井 寿正
豊明栄病院	欠席	
医療法人福友会 福友病院	院長	浅井 哲也
医療法人橘会 東名病院	院長	大塚 光二郎
あいち肝胆膵ホスピタル	院長	末永 昌宏

3 主な発言

- 地域包括ケア病床は、大事な部分を担うべき病床でありながら、実際に今は、ほぼ回復期に近い病床になりつつあり、地域医療を担っていく上で、急性期あるいは亜急性期も含めて、厚生労働省が描いたような絵にはなっていないという状況が見えてくる。
この点について少し整理をされないと、地域包括ケア病床の位置づけが非常に曖昧なため、是非明白にしてほしい。
- 地域包括ケア病棟の、補助制度を利用して、試算なり道筋なりをもうちょっと明確にしていれば、地域包括支援病棟に手を挙げるところはもっと増え、在宅のバックベッドとして機能していくと思う。ここで皆躊躇している。
- 回復機能の病床を確保する必要があると書いてあるが、その補助が出ているが、申請して、その後の道筋が全然わからないので、なかなか皆手を挙げにくい。
- 病院の改修基準等を段階的に緩和するとか、移行措置みたいなものを作っていたら、取り組みはしやすい。
- 大学病院の専門医の配置が、国において議論されていると思うが、四大学病院の医師の配置については、県で指導的に考えてほしい。
- 安心して在宅医療を実施するために、後方病院の確保が必要である。
- 自治体病院は、どちらかというと、地方の病院が多いので、急性期機能だけでは成り立たない。

3 まとめ

- 尾張東部構想区域における医療課題について、新たな医療課題としての意見は無かった。
- 尾張東部構想区域における必要病床数について、特に意見は無かった。